

会 議 録

会議の名称	西東京市都市計画マスタープラン策定市民懇談会 (平成15年度第2回:通算第8回)
開催日時	平成15年6月4日 午後6時30分から9時00分まで
開催場所	インゲビル3階会議室
出席者	(委員)堀越座長、宇賀神委員、大森委員、奥村委員、佐藤委員、武田委員、田中(雅)委員、田中(政)委員、鳥塚委員、中島委員、野中委員、蓮見委員、松川委員、村田委員、山下委員 (欠席)永田副座長、青木委員、佐伯委員、沼委員、米山委員 (事務局)斉藤都市計画課長、館岡都市計画係長、松本主任、増岡主事
議 題	「地域別構想(中央地域・保谷駅南部地域・田無駅北西部地域のまちづくり)に関する検討等
会議資料	1 都市計画マスタープラン関連資料 (地域別の概況図・市内の主要開発事業一覧表・市の資源関連資料)
会議内容	会議内容の要点記録

発言者名	発言内容
事務局	挨拶、定足数に達していることの報告。
座長	あいさつ
以下、発言者は記述せず、論点ごとに要点を筆記する	<p data-bbox="438 425 558 470">開会宣言</p> <p data-bbox="414 504 606 548">【議事の要点】</p> <p data-bbox="414 548 1037 593">1．15年度第1回市民懇談会会議録について</p> <ul data-bbox="438 593 1444 750" style="list-style-type: none"> <li>・15年度の第1回市民懇談会会議録について、懇談会終了後に武田委員から修正要望が出され、一部を修正したことが、事務局から報告された。</li> <li>・その内容で一同に了承をいただいた。</li> </ul> <p data-bbox="414 784 877 828">2．中央地域のまちづくりについて</p> <ul data-bbox="438 828 1444 907" style="list-style-type: none"> <li>・中央地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見が出された。</li> </ul> <p data-bbox="438 907 821 952">&lt;東大農場の移転について&gt;</p> <p data-bbox="494 952 1444 1108">東大農場が将来移転することが明らかになったが、跡地については、大木などを含めて現在そのまま保全していくべきである。（事務局より、東大農場の移転に関して市が入手している情報について報告がされた。）</p> <p data-bbox="494 1108 1444 1220">東大の演習林は残るようであるが、農場についても保全を望む声が強。別の学部が宇宙工学の実験場を建設するとの情報を得ており、対応を明確にしておく必要がある。</p> <p data-bbox="494 1220 1444 1344">様々な主体による土地利用構想に基づき開発が進むことで虫食い状態にされないように、市として絶対保全するとの覚悟が必要である。西原自然公園のように人工物のない空間として守るべきである。</p> <p data-bbox="494 1344 1444 1422">募金活動程度では保全は不可能である。多くの市民が移転を知れば保全のための運動も盛り上がりをもせることが期待される。</p> <p data-bbox="494 1422 1324 1467">国や東京都に買い取りを求めるのが最善であると考えられる。</p> <p data-bbox="494 1467 1444 1702">1992年に田無市議会で、東大農場内への都立公園の設置要望を決議しているが、現在も効力をもっているのか。（事務局より、決議後に東京都に折衝を行ったが、その時点では東大農場は将来も安定的な存在と考えられていたため、要望が聞き入れられず、その後沙汰閣になったことが説明された。また、移転が明らかになった最近、西東京市議会に存続を求める陳情が出されていることが報告された。）</p> <p data-bbox="494 1702 1444 1780">誰が所有することになっても構わないが、自然的な利用がされることこそが肝要である。</p> <p data-bbox="438 1825 582 1870">&lt;その他&gt;</p> <p data-bbox="494 1870 1444 1937">公園や寺社が比較的多い地域であり、まちの資源として大切にすべきである。</p> <p data-bbox="494 1937 1444 2049">如意輪寺をはじめとする寺社と豊富に残る農地などを地域の資源として活かしたまちづくりを行うことで、素晴らしい田園都市になると考えられる。</p>

比較のみどりが多い地域であるが、複数計画されている都市計画道路の整備が進捗することにより、悪影響が心配される。

谷戸せせらぎ公園は、幼児・児童にとっては安全で利用しやすいものとなっている。

ひばりヶ丘駅に向う都道と都市計画道路田 3・4・10 が Y 字型の交差形状となるが、地域の分断を招いたり、都道沿道の既存の商店街の衰退に拍車をかけることになる。(事務局より、都市計画道路網については、広域のネットワークを考えて昭和 36 年頃に決定したものであること、都道の沿道については商業活性化を図り、田 3・4・10 については通過交通の処理に重点を置いた道路とすることで、望ましい市街地形成に努めたいとの説明がされた。)

地域を自動車で廻ったが、行き止まり道路が多く迷路のようであった。そこに住む人にとっては通過交通がなく静かな環境が守られているともいえるため、総合的な視点からあるべき姿を考える必要がある。

旧農道が現在の生活道路となることで迷路状の道路網となっている。都市計画道路の整備による道路の連続性の確保が課題である。

蓋掛けがされている新川については、水辺の空間を再生するべきである。

新川は、小学校の通学路として蓋掛けされてしまった経緯がある。周辺で安全な歩道が整備されれば水の資源は活用すべきである。

屋敷林の多い地域であり、大切にすることが必要である。行政からの補助金の増額等が検討されると良い。

この地域ならではの問題点と特性を分析する必要がある。具体的には、主要地方道 36 号保谷志木線の歩道が狭く、切下げも多くでこぼこしているという問題点と、なし・ぶどうといった果樹園や地蔵などの地域資源があることが指摘できる。これらの地域資源を生かして連続させれば回遊性があがると思われる。

道路名称に、主要地方道・都道 号・市道という表現と、田・、保・ という表現があるがわかりにくい。(事務局より、後者は都市計画道路の名称であり、その整備が完了した段階で、道路管理者となる主体により前者の名称が使われるようになることが説明された。)

### 3. 保谷駅南部地域のまちづくりについて

- ・ 保谷駅南部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見が出された。

#### < 保谷駅南口付近のあり方について >

保 3・4・13 の整備が大部分の区間で完了しているが、保谷駅近くの区間が後回しにされたことが残念である。(事務局より、東京都の事業であるが、市も協力することで、買収が進んでいることが報告された。)

保谷駅南口の商店街は、通過交通が多く危険である。練馬区と連携して道路整備を行うべきである。

駅前の商店街は適度な幅をもっており、保3・4・9の整備により通過交通が排除されれば、良い商店街となると考えられる。

商店街の道路は、交通が錯綜しており、大泉インターチェンジができてからは大型車の混入も増加するなど、問題を抱えていることが、テレビで報道されているほどである。保3・4・9が開通しても、抜本的な対策がない限り通過交通は減少しないのではないかと。

市南部から練馬インターチェンジ方面へ行く時には、保谷駅近くが危険であるため通過を避けている。再開発事業とあわせて都道233号線もスムーズにバスが通れるように拡幅すべきである。

( ~ に関して、事務局より、練馬区との連携は現在のところ当該箇所ではないことが説明された。 )

#### <その他>

防災面からは、小型消防車でさえ進入できず、延焼遮断の機能も弱い道路網の改善は必要である。

都道234号前沢保谷線の東側の一帯は、低層住宅を中心した素晴らしい環境をもった住宅地であり、守っていくべきである。

碧山森緑地や新川などの自然的資源を活かすべきである。

保谷駅近くに武家屋敷風の店やかりんとう屋があるなど、面白い資源がみられるため、活用すべきである。

保谷駅西側に跨線橋があるが、デザイン等に工夫が欲しい。

保谷庁舎内にみどりが少ない。公共施設の配置等にも工夫が欲しい。

生産緑地を残していくために営農の意欲がある人には市の支援を望みたい。(座長より、総合計画の検討の場にも伝えたい旨発言があった。)

住宅の生垣は比較的多くみられることから、保全・充実に努めるべきである。(事務局より、東京都による生垣設置を支援する制度があったのが数年前に廃止され、市独自の支援制度が残っていることが説明された。)

#### 4. 田無駅北西部地域のまちづくりについて

- ・田無駅北西部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見が出された。

東久留米市や小平市に近接しており、田無駅よりも花小金井駅の駅勢圏にある住宅が多い。

低層と中層の住宅地がほどよく配置され、比較的すっきりとした町並みが形成されている。

庚申塚や地蔵など地域資源がある。

久米川街道や東京街道はけやき並木で散歩道となっている。

スカイタワー・多摩六都科学館・ゴルフの練習場の周辺には、市外からも人が集まっており、にぎわいを感じられる。

狭山在住であるが、スカイタワー周辺がまちのシンボルとなっていると思われ、その維持・活用が望まれる。

団地の外周部が緑化されていたり、美しい街路樹があるなど、比較的美しい地域である。

西原グリーンハイツなど、モデルともいえる美しい住宅団地が存在している。（事務局より、西原グリーンハイツは「一団地の住宅施設」として、周辺の公園や小学校も含めて都市計画に定められていることが説明された。）

西原グリーンハイツ・公団地・西原自然公園・第三中学校周辺の一帯、本願寺墓地近くの集合住宅の建設が進んでいる一帯などを、一つのまとまりと捉えて、各々回遊できるような空間として整備するべきである。

旧西原第二小学校の跡地については、利用方法が検討されているようであるが、高層建物への建替等、将来が懸念される。（事務局より、国の補助を得て建設したものであり、簡単に取り壊すことは考えにくく、現状での有効活用となる可能性が高いとの説明がされた。）

学校施設の建替えについても都市計画部局の所管とするのが望ましい。

学校敷地内の樹木の維持管理について、都市計画・みどり・教育の3部局が連携して行うべきである。

（事務局より、教育財産のあり方については教育委員会の所管であるという基本があるが、互いの連携に努めたい、との説明がされた。）

長期的には高齢化が必然であり、相続等により農地が減少することとなる。みどりをまとまって残せる可能性のある地域であり、計画的な開発の規制・誘導に努めるべきである。

本願寺墓地の東側の道路が狭く車がスピードを出すため、墓地への来場者等にとって危険な空間となっている。

#### 5. 次回の開催日時・開催場所について

- ・ 次回の懇談会は、7月2日の午後6：30からとする。

（以上）

〔懇談会後に委員より提出された意見の要点〕

なし

